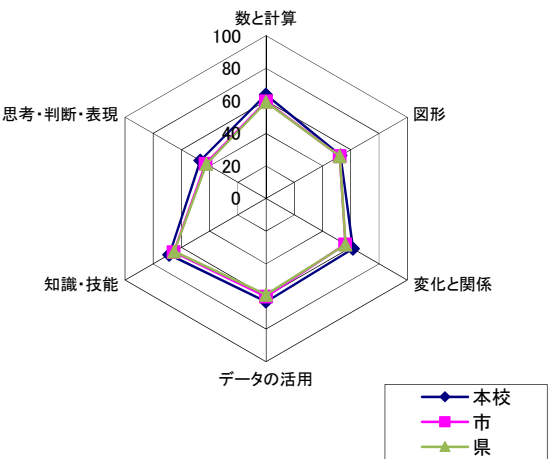


宇都宮市立富士見小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	63.8	59.7	59.2
	図形	52.7	52.1	52.1
	変化と関係	61.5	56.1	56.3
	データの活用	63.3	60.1	58.9
観点	知識・技能	68.7	65.5	65.1
	思考・判断・表現	46.7	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○本領域の平均正答率は63.8%で、県の正答率を4.6ポイント上回った。 ○「分数の大小を比べる問題」の平均正答率65.5%で、県の正答率を13.6ポイント上回った。 ●「数直線上の目もりを分数で表す問題」の平均正答率は50.4%で、県の正答率を3.2ポイント下回った。 ●「目的に応じて正しく見積もっているものを選ぶ」の平均正答率は27.4%で、県の平均正答率を0.4ポイントとやや下回っている。	・基本的な計算の技能の向上を目指して、朝の学習や家庭学習などの時間を活用し、繰り返し練習問題に取り組ませる。 ・概数においては、反復練習を行ったり、日常生活で活用したりしながら、習熟を図る。
図形	○本領域の平均正答率は52.7%で、県の正答率を0.6ポイント上回った。 ○「三角定規を利用して、正しい角度を選ぶ」の平均正答率は69.9%で、県の平均正答率を5.2ポイント上回った。 ●「身近なものの面積と単位として正しいものを選ぶ」の平均正答率は26.6%で、県の正答率を8.0ポイント下回っていて、他の設問に比べて平均正答率が低かった。	・身近なものの長さや面積を実感できるような活動や、具体物を用いた活動を取り入れた授業を展開する。 ・身の回りで用いられている様々な単位に興味をもたせ、単位のしくみについての理解を深めていく。
変化と関係	○本領域の平均正答率は61.5%で、県の正答率を5.2ポイント上回った。 ○「数量の関係について、正しく表された図を選ぶ」の平均正答率は72.6%で、県の正答率を3.3ポイント上回った。 ●「伴って変わる2つの数量の関係について、表をたてに見て分かることを説明する」の県の正答率は0.7ポイント上回っているが、本校の平均正答率は25.7%と高くはない。	・説明の際に使う用語や、書き出しの文を提示し、説明を書くことに慣れさせる。 ・反復練習する機会を設けて習熟を図る。
データの活用	○本領域の平均正答率は63.3%で、県の正答率を4.4ポイント上回った。 ○「表を見て条件に合う部分を選ぶ」の平均正答率は82.3%で、県の正答率を2.3ポイント上回った。 ●「小数の加法を整数の加法に直して処理する方法を説明する」の平均正答率は23.0%で、県の正答率を6.2ポイント上回っているが、他の設問に比べて平均正答率が低かった。	・二次元表の読み取りの技能の習得にとどまらず、他教科でも活用し、継続的・横断的に指導をしていく。 ・順序立てて相手に分かりやすく説明できるよう、日頃から伝え合う活動に取り組ませる。